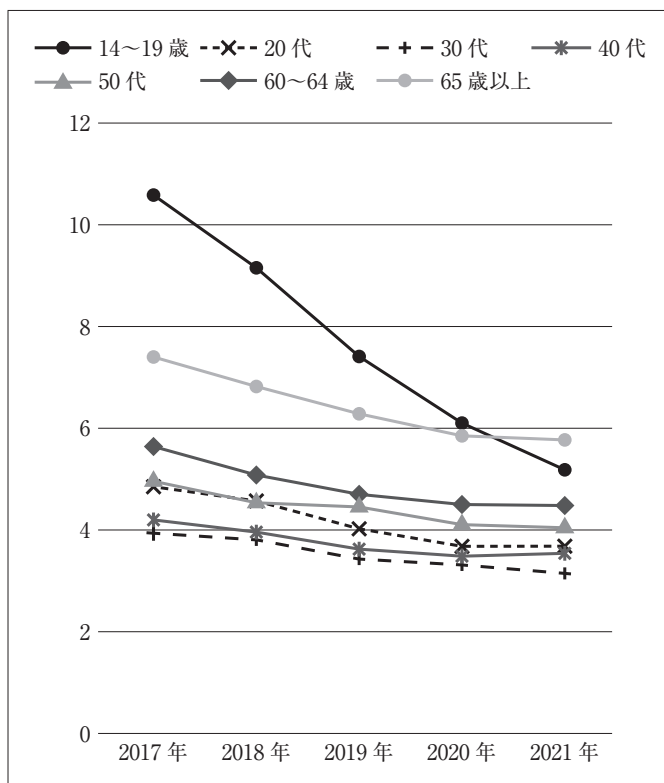


小論文 B（資料総合分析型）

下の図は、年齢層別人口に占める万引き検挙人数の割合（1万人に対する人数）を表したグラフである。この図を見て、以下の設問にそれぞれ答えなさい。

- 問 1 下の図から読み取れる事実を 200 字程度で書きなさい。その際、年齢層ごとの経年変化に関する傾向に着目すること。
- 問 2 問 1 で読み取った事実のような変化が生じた社会的状況や犯罪対策などについてのあなたの考えを 600 字程度で述べなさい。



図：年齢層別人口に占める万引き検挙人数の割合（1万人に対する人数）

出典：警察庁「刑法犯に関する統計資料」に基づいて作成

【解答例】

問 1

万引きの検挙人数は、減少傾向にある。14 歳から 19 歳は 2017 年において 1 万に対して 10 人以上もいたが、年が経過するごとに減少していき 2021 年には 5 人に近い値となっていた。65 歳以上は、2017 年時点で万引きの検挙人数が次いで多かったが、その後値が減少するものの 2021 年には 14 歳から 19 歳よりも多く、1 万に対して 6 人程度となっていた。30 代、40 代は 2017 年から 1 万に対して 4 人程度であり、その後も低い値で推移していた。(190 字)

問 2

グラフから万引きの検挙人数がどの年代においても 2017 年から 2021 年にかけて減少していることが示された。また、14-19 歳が当初多かったが、2021 年には 65 歳以上の万引きの検挙率の方が多くなった。このような変化が生じた理由として、スーパーやコンビニが増え、商品を購入する際に個人商店といった監視体制が整っていない場所で購入する機会が減ったため、万引きがしにくい状況となっていることが考えられる。一方で、万引きをする高齢者が増えている状況を踏まえると、核家族化が進み、社会的に孤立することで万引きを止める他者が存在しにくくなっていることが考えられる。また、年を重ねることで認知症を発症してしまい、万引きをしてしまうという状況も考えられる。

万引きをさらに減らす対策として、防犯カメラや鏡を設置し人から見られているかも知れないという状況を作ることが重要である。さらに店の中に人が多くいる状況を作り万引きを行いつらい状況を作ることが重要である。これにより、14-19 歳だけではなく、65 歳以上の方々の万引きを抑制することにつながる事が考えられる。65 歳以上の万引きを抑制するためには、社会的なつながりを構築するために地域の民生委員や隣近所の人との交流を増やし見守られている状況を作ること、万引きをしてしまう場面から 65 歳以上の方を遠ざけることができるかもしれないと思う。以上のことを行うことで万引きによる検挙人数がさらに減ることが期待される。(600 字)

【出題意図】

- 問1 図を見て、そこから読み取れる事実を的確に把握する能力を見る。
- 問2 図の示す意味を適確に理解したうえで、自分の考えを明快に表現する能力を見る。